



故きを温ねて、新しきを知る
帯広葵学園のあしあと

学校法人帯広葵学園
理事長 上野敏郎

平成28年10月28日に判明した病原性大腸菌O-157の集団感染の出来事は、ある意味で社会的事件でした。幼稚園関係者、行政のみならず保護者が働く勤務先にもご迷惑をかけてしまいました。子ども達は言うまでもありません。

この原因は、前日の焼き芋大会に持ち寄った芋の余りで調理した「ホニートサラダ」にありました。この中に菌が入っていたとされたのです。しかし、子ども達が持ち寄ったどの芋にその菌が混入していたかは特定できませんでした。

何れにしても、葵西幼稚園の行事です。その責任は大きなものがあります。当時、葵学園に勤務していなかった現在の職員も含めて私たちは決して忘れてはならない出来事なのです。振り返ってみます。

①平成28年10月28日夜、帯広保健所は葵西幼稚園で3歳から6歳の園児と職員が病原性大腸菌O-157に集団感染した疑いがあると発表します。その数50人。

②翌29日、なぜ、夏を過ぎたこの時期に1との戸惑いを持ちつつも、全職員が帯広保健所に協力を得ながら園舎をくまなく徹底消毒をします。幼稚園は自分の間としながらも全面的休園です。帯広市は市内全校の消毒を徹底します。

③幼稚園の職員は、病院に入院する子ども達はもちろんです。自宅待機の子も達との連絡を徹底します。その中で「出社見合わせて」とか「公園で遊ばせないで」などの声も多く幼稚園に入るようになります。

④11月2日、幼稚園は今回の出来事に関して保護者説明会を開きます。当然、厳しい意見が出ます。幼稚園は理事長を筆頭にひたすらお詫びし、今後の対応に全力を傾けることを約束します。

この年の葵西幼稚園はホールの増築工事をしていました。11月の発表会がいわばこけら落としたのですが、理事長を筆頭に謝罪説明会がその前にきてしまったのでした。

子どもに必要なことはすべて
児童憲章
の中にあります

児童憲章 第八条

すべての児童は、その学業にのみならず、心身の健全な成長を旨とし、教育を受け、機会が失われず、また、児童としての生活が、またげられないように、十分に保護される。

All the children are to be well guarded so that they, in their labor, may not be hindered in the growth of mind and body, in the chance of receiving their education, and in their life as children.

